

情報連絡員報告総括表（令和5年5月分）

三重県中小企業団体中央会
 連絡員総数 40名
 回答数 40名（100%）

業界の景気動向（前年同月比）

		売上高			在庫数量			販売価格			取引条件			収益状況			資金繰り			設備操業度			雇用人員 <small>（臨時・パートを含む）</small>			業界景況					
		増加	不変	減少	増加	不変	減少	上昇	不変	悪化	好転	不変	悪化	好転	不変	悪化	好転	不変	悪化	上昇	不変	悪化	増加	不変	減少	好転	不変	悪化			
製 造 業	食料品	3	1		1	3			4		1	3		1	3			4		1	3		1	3		1	3		1	3	
	繊維工業		3			2	1	2	1			3			3			3		1	2			2	1	1	1	1	1	1	
	木材・木製品			1		1				1			1			1					1			1					1		
	紙・紙加工品	1		1	1	1		1		1		1		1	1		2			1	1		2				2				
	印刷		1			1			1			1				1					1				1				1		
	化学・ゴム																														
	窯業・土石製品		2	1		3		1	2		1	2			2	1		3			3			3				2	1		
	鉄鋼・金属			1			1		1			1				1					1			1					1		
	一般機器	1	2		1	1	1	3				3			1	2		3			2	1		3				2	1		
	電気機器			1		1			1			1				1						1		1					1		
	輸送機器		1		1			1							1							1			1				1		
その他																															
	小計	5	10	5	4	13	3	8	10	2	3	14	3	1	11	8		19	1	2	11	7	1	16	3	2	10	8			
非 製 造 業	卸売業	1	1			2		2			2				1	1		2						2			1	1			
	小売業	3	2	1	1	5		3	3		4	2		4	2		5	1						6		1	3	2			
	商店街		1			1		1			1				1						1				1		1				
	サービス業		3	1					4			4			3	1		3	1					4			3	1			
	建設業	1	3						4		1	3		1	3		1	3						4		1	3				
	運輸業	1							1			1			1			1						1			1				
	その他		2						2			2			2			2						2			2				
	小計	6	12	2	1	8		6	14		1	17	2	1	15	4	1	16	3				20			3	13	4			
	合計	11	22	7	5	21	3	14	24	2	4	31	5	2	26	12	1	35	4	2	11	7	1	36	3	5	23	12			

最近の主要指標の前年同月比D I の推移

(令和4年5月～令和5年5月)

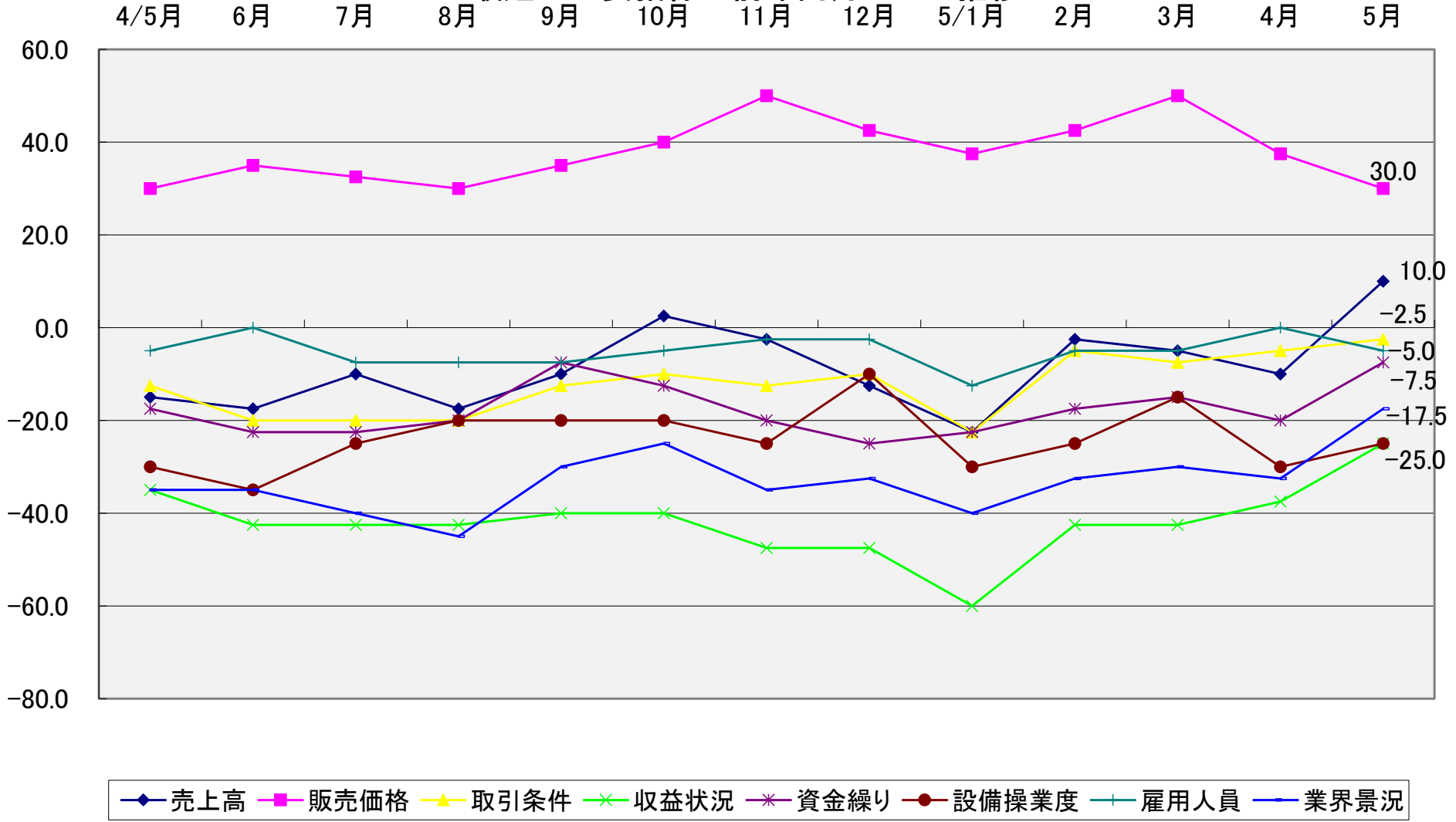
三重県中小企業団体中央会

連絡員総数 40名

	4/5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	5/1月	2月	3月	4月	5月	増減
売上高	-15.0	-17.5	-10.0	-17.5	-10.0	2.5	-2.5	-12.5	-22.5	-2.5	-5.0	-10.0	10.0	20.0
販売価格	30.0	35.0	32.5	30.0	35.0	40.0	50.0	42.5	37.5	42.5	50.0	37.5	30.0	-7.5
取引条件	-12.5	-20.0	-20.0	-20.0	-12.5	-10.0	-12.5	-10.0	-22.5	-5.0	-7.5	-5.0	-2.5	2.5
収益状況	-35.0	-42.5	-42.5	-42.5	-40.0	-40.0	-47.5	-47.5	-60.0	-42.5	-42.5	-37.5	-25.0	12.5
資金繰り	-17.5	-22.5	-22.5	-20.0	-7.5	-12.5	-20.0	-25.0	-22.5	-17.5	-15.0	-20.0	-7.5	12.5
設備操業度	-30.0	-35.0	-25.0	-20.0	-20.0	-20.0	-25.0	-10.0	-30.0	-25.0	-15.0	-30.0	-25.0	5.0
雇用人員	-5.0	0.0	-7.5	-7.5	-7.5	-5.0	-2.5	-2.5	-12.5	-5.0	-5.0	0.0	-5.0	-5.0
業界景況	-35.0	-35.0	-40.0	-45.0	-30.0	-25.0	-35.0	-32.5	-40.0	-32.5	-30.0	-32.5	-17.5	15.0

(注1) 「D I」はデフレーション・インデックスの略で「増加」・「好転」したとする
企業割合から、「減少」・「悪化」したとする企業割合を差し引いた値である。

最近の主要指標の前年同月比DIの推移



情報連絡一覧票

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等 (景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
食料品	漬物	生産者の高齢化と後継者不足により、一部業者の中では漬物原料野菜の供給不足が続いている。今年度は例年並みの収穫が得られ、ほぼ例年並みの漬け込みが行われている。また、販売状況においてもコロナウイルス規制の緩和により、旅行者の増加などによって、お土産物の需要がかなり回復してきており、コロナ前の状況に戻ってきている。一方で、ウクライナ戦争の影響及び円安による諸資材の高騰により、製造コストに影響が出ていて、特に電気代が約50%値上がりしており経営を圧迫している。更に昨年に比べ、廃業により会員が2件脱会し、賦課金が減少した。5月18日に中部漬物協会の総会が開催され、理事長代理が出席した。また、5月30日に東京で全国漬物協同組合連合会の総会が開催されたが、本年度は欠席した。
	醤油味噌	前月の生産が活発だったためか、納入量は幾分少なめであった。経済の回復から展示会、商談が増えてきており、今後の調味料類販売に期待できる。新商品の導入のため、新工場の建設を行っている企業もある。大手メーカーが8月から調味料を4~20%値上げをすと発表している。味噌メーカーも家庭用味噌と味噌加工品を9月から7~23%値上げを発表。原料関係では小麦がカナダ、南米等で生産面積を増やし、欧州でも生産量を増やす傾向にあることから相場は下落している。これにつられる形で大豆、コーン相場も下落。大豆は中国需要が減っている事も影響している。カナダ菜種も生産回復から相場下落で油脂も下げ基調である。
	他に分類されない食料品 製造業	コロナも「5類感染症」となり、どの団体も3年ぶりに通常運用で総会を開催した。雰囲気は前向きな感じでやる気や熱気を感じた。
	製麺	5月20日、21日と鈴鹿市JA農協まつりにて3年ぶりに飲食ブースが再開した。当組合もうどんと伊勢うどんの販売をさせていただいた。3年前に比べ、7割程度の数量であったが、まずまずのPR活動が出来た。ゴールデンウィークは伊勢神宮も多くの方々で賑わっていた。
木材・木製品	木材	需要の減少、燃料費、輸送費の高騰が経営に影響してきている。
紙・紙加工品	木材チップ	原材料価格が高止まりしているため原料確保が課題である。
	古紙	5月の仕入量は、段ボール・約97±2%、新聞、チラシ・約89±3%、雑誌・雑がみ、その他を合わせて約96±3%と思われる。巣ごもり解放気分かのためか、もしくは早めの夏だからなのか、または5月8日以降のアフターコロナとゴールデンウィークのインバウンド効果からなのか、段ボールと雑誌(雑紙や紙容器類)が期待通りではないものの、取引量はあったように考えられる。運賃の値上げはしていただけだが、製紙会社の生産は計画通りの前年マイナスで、製紙原料古紙の発注量も約20%前年マイナスである。流通事業者の情報では、ウクライナへのロシアの軍事作戦が世界景気に影響を与えているとのことであるが、更に資本主義と共産党資本主義圏+資本主義不満国の保護主義化となり国際経済の活力を奪っているような感がある。高齢者の雇用は人にも経済にも優しいが、昭和から変わらない業務の内容や手法では能率も上がらず高齢者等の寿命を縮めるのかも知れない。業界もすべての人に優しい仕事の仕方や工夫で業務を遂行し、AI・IT・DX化で効率を良くしたいが、課題がありそうである。ゴールデンウィークのゴミ等の置き去り行為はさらに増え、古紙の持ち去り行為はなくなり、持ち去り古紙を取り扱った業者も罰則を受けずにいる。古紙持ち去り行為の撲滅とそのための立法化は必要で、より人に優しい社会づくりに役立つと思うのであるが、行政を動かすことは容易ではない。
印刷	印刷	1. 今年も三重県より、三重県民手帳事業の当組合への受託が決定した。今回で10回目(10年連続)となるが、組合員が制作から販売まで一体となって取組み、組合販売による収益確保で組合活動の安定化、また、組合員による個々の販売で収益に繋がる事業は、組合活動において有益なものとする。 2. 三重県が募集している三重県SDGs推進パートナー制度に、当組合もパートナー登録された。5月以降で組合員数52社となったが、うち5社がパートナー登録している。今後においても、組合員に対し、このパートナー制度への登録を呼びかけ、調達先選定の理由とされることを期待している。 3. 5月期において、仕事量は昨年並みであるが依然低調である。7月には資材(封筒)の値上げがアナウンスされた。これまで同様に、値上げ分の上乗せによる客離れが不安視される。
	窯業・土石製品	伊賀焼
鉄鋼・金属	鍍金	当業界の生産額は4月とほぼ同様であった。ただ、自動車関連は横並び、その他の部分に関しては増産傾向にあるものの原材料の高騰、エネルギー価格の高騰(ガス、重油、電力料)が続く、収益圧迫の原因となっている。半導体関連は5月に入っても減少傾向が続く、夏場すぎまでこのような状況が続くものと思われる。

情報連絡一覧票

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等 (景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での課題点)
一般機器	四日市市	各企業により濃淡があるが総じて需要、業績は停滞気味である。それは半導体不足や紛争の長期化による仕入価格、電気代、燃料費の上昇や自動車関連が未だ低調なことが理由である。工業製品の需要増、設備投資につながっていくことを期待したいが、年内は様子見となりそうである。
	津市	昨年より原材料の高騰による単価改定で、売上は昨年より増加しているが、電気代や輸送費はなかなか価格に反映できず、収益は悪化している。6月から増える見込みとの情報があるが、5月時点では何も変わらなかった。増産の情報は昨年もあったが、実際には減産だったため、今回の情報は本当に正しいのかどうか慎重に判断する必要がある。
	伊勢市	半導体不足を解消するための設備投資が増えていたが、半導体不足が解消されつつあり減少してきた。国内の自動車関連の受注は減少しており、調達価格の上昇は続いている。
電気機器	鳥羽市	大型連休はあったがこの理由ではなく、受発注はなかなか戻ってこない。売上高は10~15%減で推移している。
小売業	青果	野菜前半：ゴールデンウィークがあり休日が続いたことによる流通の影響で、一時的に価格が全体的に高値となったが、通常の流通に戻ったことで価格を下げた品物が多くなった。特にじゃがいも、トマト、ミニトマトは順調に入荷している。また、ブロッコリーもお値打ちであるが、人参は高値である。 野菜後半：お値打ち品が多く、トマト、ミニトマト、きゅうり、なすは順調に入荷している。キャベツ、ほうれん草も安い。人参も値下がりがした。らっきょうは今が旬で、高知県、鹿児島県産に続き、主要産地である鳥取県産も入荷してきた、価格は平年並みである。県内産の小梅、和歌山県産の大梅も入荷している。 果物前半：県内産イチゴは終盤になり、量的に少なくなっているが、お買い得である。母の日に向けて熊本県産のメロンが最盛期である。宮崎県産のマンゴー、山形県産のさくらんぼの入荷が増えているが、高値である。すいかは熊本県産が入荷してピークを迎えている。大玉が多く、味も良く荷動きが良い。 果物後半：山形県産のさくらんぼは母の日が終わり値下がりがした。ぶどうは島根県産のデラウェア、長野県産のシャインマスカットが入荷している。メロンについては、静岡県産、熊本県産のアールスメロンは大玉傾向で上品な甘味があり好評である。スイカは愛知県産の入荷が増えており、味も良い。
	自転車	コロナ禍での生活もひとまず落ち着きを取り戻すこととなった5月、自転車利用者も増す中、今年は春の全国交通安全運動が1ヶ月遅れの開催となり、ヘルメット着用努力義務の運動もあわせて行った。自転車業界においては、春需製品を含む大幅な値上げの影響で、商品の買い控えがあったと同時に中古車の問い合わせが非常に多く感じられた。個人消費が落ち込むも、修理、点検部門では昨年は12月から自転車安全整備制度 (TSマーク保険) の変更 (赤色から緑色TSマーク) に伴い、補償が拡大されたことで、点検整備料金も値上げとなり、この制度に切り替えたショップは、点検台数と同時に売上が20%程度上昇となった。
	電器	人の外出が多くなり、観光や外食、ショッピングにも出かける人が多くなってきたと思われる。特にコロナを意識しなくなった傾向にある。コロナ対策関連商品や家電製品に対する意識 (買い替えなど) は商品の流れを見るからに弱まっているように感じる。梅雨入りとこれからの夏場商戦に向けて販路の強化を重点的に行って行かなければならないと思っている。
	石油	経済産業省は、二酸化炭素 (CO2) と水素を合成して作る液体燃料「e-fuel」(イーフューエル) を商品化する時期について2030年代前半に5年程度前倒しすることがわかった。最新の製造技術やサプライチェーン (供給網) の進捗を踏まえ可能だと判断したらしい。5月16日に開く官民協議会で新たに目標を議論する。脱炭素社会の実現に向けた取り組みを加速させたいと考えて、2030~2034年の間に設定する。関連のプロジェクト支援や米国やドイツとの連携も提案する方針らしい。我々、ガソリン小売業界にとっては現況施設のまま販売ができ、内燃機もそのまま利用可能であり、さらにCO2削減にも寄与する。早期実現に期待するものである。
	スポーツ	新学期も始まり、各クラブの新入部員の登録も終わり、本格的にクラブ活動が動き出してきた。あんなに騒がせたコロナ騒動もどこへいったのかいよいよ落ち着いてきて、今までの不振を取り戻そうと思った矢先に新たに三重苦に悩まされ始めた。第一に価格の大幅値上げ、第二に商品の品切れや納期遅延、第三に卸掛け率や送料等の取引条件の変更である。このような問題を抱えている小売店 (組合員店) は成り行き任せにしてしまっている。せっかく組合組織があるのだから何か手を打つてもらうもの普段から組合の重要性に気づいていない組合員が少なからずいることが残念である。皆で知恵を出し合ってこの三重苦を乗り越えてほしいと思っている。

情報連絡一覧票

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等 (景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での課題点)
商店街	熊野市	4年前から開催されなかった駅周辺での市街地イベントも4年ぶりに開催され、商店街内の朝市イベントもコラボ開催され大いに盛り上がった。出店された各店舗の売上もよく、商品が完売する店舗も多かった。今年は各イベントも復活の方向で進んでおり、大いに活性化が見込まれる。ただ、高齢化や後継者不足などにより長年継続してきたイベントが終了するケースもあり、今後への課題でもある。
	旅館	ゴールデンウィークの5月3～5日は早くから予約が入り満館になっていたが、前後の日はそれ程でもなかった。新型コロナウイルス感染症もようやく5類に移行したが、コロナ前に戻っている観光地は限定的でインバウンドも含めて地方への戻りは夏休みまでかかるようである。前年同月比80～90%、2019年同月比60～70%程度であったようである。
	警備	現在コロナでの影響も少しは薄れてきているため、今後は受注増が期待される。
建設業	総合工事業	令和5年4月の県内建設企業公共工事の受注高は、過去3年間で最少となっている。特に国発注公共工事は、昨年度の減少状況から回復する兆しが見えず、4月の受注高は前年同月比47%減となっている。このように県内の公共工事の受注を中心とする建設企業にとっては、非常に厳しい状況が続いている。
	内装工事業	5月は連休もあり、売上は減少傾向にあるが、今年是对前年同月比で大幅なプラスとなった。コロナ明けの反動が出たのかもしれない。
	水道工事業 (亀山市)	前期をもって退会が1社あり、組合員数も8社となった。本年度も水道事業の委託業務を受注しているが、組合員数の減少により業務負担が増えた。特に漏水当番の回数が増え、通常の勤務時間に漏水時の時間外労働が多くなることが懸念される。働き方改革による労働時間や休日のあり方が変わる中、より一層の取組みが難しくなると思う。
運輸業	トラック	軽油価格は2ヶ月連続して値下がりをしてしているが、依然として高値傾向が続いている。電子・デバイス部門は世界的な需要減が続いているため、関連する輸送についても依然として厳しい状況が続いている。自動車関連部門はトヨタ自動車、ホンダ技研ともほぼ半導体不足が解消したことから、増産体制となっており、関連する輸送も増加している。スーパー、小売については相次ぐ小売価格の上昇が続く中、売上は改善傾向にあり、関連する輸送についても増加傾向に転じた。

行政庁・中央会に対する要望事項

集計上の分類業種	具体的な業種	行政庁・中央会に対する要望事項、または関心のある事項、意見等
食料品	他に分類されない食料品 製造業	5月は総会月で、議事録作成においてサポートいただき、大変助かっている。また、外部組合の様子や制度の説明等、いろいろな情報をいただけるので、視野が広くなり有難い。
一般機器	四日市市	コロナ5類への移行による制約の解除、インバウンド需要で経済が上向きざしとなることを期待したい、工業製品の需要の停滞は2023年内は続く見込み、物価や光熱費さらに人件費の増大も見込まれる。今後の状況を注視しながら、きめ細やかな支援をお願いしたい。
サービス業	旅館	コロナ融資の返済が始まり、財務体制が厳しいため、融資返済に対する新たなリスク、減免を含めた手当を何とかお願いしたい。